

新大病院たより **和**

第45号

(標題：中野雄一 元病院長)



病院長就任のご挨拶

平成25年4月1日付けで、病院長に就任いたしました。専門は内科、呼吸器内科、総合診療科で、これまで3年間副病院長を務めてまいりました。病院長就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

新潟大学医歯学総合病院は、前身の病院から数えると創立100周年を超えた我が国有数の伝統をもつ病院であり、新潟県内外の多くの医療機関との密接なネットワークを持っています。本院の理念は、「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」というものです。また、病院の目標として、「患者さん本位の安全で安心できる医療を提供する」、「研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践する」、「地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献する」といった、患者さんに良質な医療を提供する特定機能病院としての目標とともに、「豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成する」という県内唯一の医育機関としての目標も掲げています。

平成9年の西病棟建設から始まった病院の再開発がようやく完了し、平成24年11月26日に念願であった新外来診療棟が開院しました。分かりやすい案内表示等を心掛けていますが、不十分な点も多いと思いますので、行き先等がご不明の際は気軽にスタッフにお声をかけてください。また、日本海側で最初の施設である高度救命救急センターによる救急医療の充実とともに、平成24年10月30日からは基地病院としてドクターヘリの本格運航が開始されています。県域の広い新潟県において、救急医療における早期の治療開始と患者さんの迅速な搬送により、新潟県の救急医療にさらに貢献したいと思っております。

現在旧外来棟等の取り壊し工事などで、来院される皆さんにはご不便をおかけしていますが、平成26年春には病院周辺の整備として、新外来診療棟玄関前の送迎用ロータリーの設置や、それに隣接する患者さん用駐車場等の整備、コンビニやレストランなどが入ったアメニティモールの建設、ご迷惑をおかけしている市役所前から病院への市道の拡幅等を行った後に、新外来診療棟玄関前ロータリーへの新潟交通バスの乗り入れなども始まります。

新潟大学医歯学総合病院の使命は、皆さんの期待と信頼に応え、安全・安心で、高度で先進的な、そして地域に貢献できる、最適な医療を提供することであると認識しており、患者さんにとってよい病院であることを目指しています。そのためにも、お気づきの点がありましたら、いつでもご意見、ご助言いただければと思います。

病院長 鈴木 榮一

本院の理念・目標

◆ 理念 ◆

- ・生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成します

◆ 目標 ◆

- ・患者本位の安全で安心できる医療を提供します
- ・豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成します
- ・研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践します
- ・地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献します
- ・病院運営の適正化と効率化を促進します

患者の権利と責任

1. 個人の尊厳が尊重され、良質で公平な医療を受けることができます
2. 病状、治療、看護等について十分な説明と情報提供を受けることができます
3. 自分が受ける医療について自分の意思で決めることができます
4. プライバシーが尊重され、医療の過程で得られた個人情報保護されます
5. 医療者と協力し、自らの医療に積極的に参加する責任があります

❖❖❖ 病院周辺の環境整備を行っています ❖❖❖



完成予想図（イメージです）

現在工事中の新外来診療棟前広場
(平成25年7月2日撮影)

平成24年11月26日に開院した新外来診療棟。

その玄関を出て正面、旧外来棟等があった場所では、現在も整備工事が急ピッチで進められています。

これにより、新外来診療棟前の環境が整い、玄関前の送迎用ロータリーやそれに隣接する患者さん用駐車場、コンビニやレストランなどが入ったアメニティモールの建設、さらには新潟交通バスの玄関前乗り入れも実現することになります。

周辺整備の完了は、平成26年春を予定しています。

工事中につき、ご来院の皆さんにはご不便をおかけしており申し訳ございませんが、何卒ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

厚生労働大臣より、東日本大震災医療支援に対する感謝状をいただきました

平成25年5月31日(金)、新潟県庁において、東日本大震災における被災者に対する支援への厚生労働大臣からの感謝状贈呈式が行われました。

この感謝状は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災における被災者の支援活動による功績が特に顕著であると認められた団体に対して贈呈されるものです。本院では、発災直後から被災地へのDMAT隊の派遣、被災患者の受入、約1ヶ月にわたる岩手県宮古市への医療班派遣等、様々な場面での医療支援活動を行ってきました。

今回の厚生労働大臣からの感謝状は、医療・福祉などの分野で全国1458団体に贈られました。



贈呈式で感謝状をいただく鈴木病院長（前列右から2番目）

中央診療施設紹介 ⑭

病 理 部

「病理部」は患者さんと直接接することはありませんので、患者さんの多くには馴染みの薄い部門だと思えます。そこで、簡単に病理部の業務を紹介したいと思います。

患者さんが病院に来院されると、適切な治療のために適切な診断が必要になります。「病理診断」はその時に大きな役割を果たします。患者さんの体から採取された組織や細胞から、顕微鏡用のガラス標本をつくり、この標本を顕微鏡で観察して診断するのが病理診断です。この病理診断を主に行っているのが病理部です。病理診断には、生検組織診断、手術で摘出された臓器・組織の診断、手術中の迅速診断、細胞診断などがあります。

治療方針を決めるために、胃・大腸や肺の内視鏡検査を行った際にその一部をつまみ採ったり、皮膚などできもの一部をメスで切りとったりして、病変の一部の組織を標本にして検査をします。この検査を「生検」といい、それらを顕微鏡で診断するのが生検組織診断です。手術で摘出された臓器・組織は、病変の部位、大きさ、性状、広がりを目視観察で確認し、診断に必要な部分の顕微鏡標本をつくります。病理医が標本を顕微鏡で観察し、どのような病変がどれくらい進行しているか、手術

でとりきれたのか、追加治療が必要かどうか、転移の有無など、治療方針決定に役立つ情報を臨床医に提供します。術中迅速診断では、手術中に採取された病変組織から20分程度で病理診断が行われます。診断結果は執刀医に連絡され、手術方針が決定されます。細胞診断は、痰や尿を顕微鏡で調べてがん細胞がいるかどうかを判断します。のどや乳房などのしこりでは、細い針を刺して吸引し、とれた細胞の中にがん細胞がいるかどうかを調べます。

病理部では、医学部、歯学部、脳研究所、および各診療科と協力しながら年間約7000例の組織診断、6000件の細胞診断、600件の迅速診断を行っています。近年、悪性腫瘍に対する分子標的薬を用いた治療に関連した病理診断も著しく増加しています。病理部でも質の高い診断、治療に有用な情報提供に努め、医療に貢献したいと努力しています。



（病理部 部長 味岡 洋一）
副部長 梅津 哉



病気の基礎知識 ⑮

「母体血を用いた胎児染色体検査 (無侵襲的出生前遺伝学的検査)について」

新たな出生前診断である「母体血胎児染色体検査」では、妊婦の血液に含まれるDNA（デオキシリボ核酸）の断片を使い、胎児の染色体疾患の可能性について検査をします。通常のDNAは、細胞の核の中にありますが、この検査では血液中に浮かんでいるcell-free DNAを利用します。このDNAの大部分は、胎盤の絨毛細胞と呼ばれる組織に由来します。お母さんと胎児は胎盤でつながっていますが、その中の絨毛間腔といわれる部分において絨毛から剥がれ落ちた胎児由来のDNAがお母さんの血液に流れ込み浮遊していきます。検査では、このDNA断片の塩基配列を解析して検査に使用します。

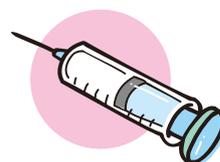
母体血胎児染色体検査では、DNA断片の塩基配列を超高速かつ大量に解読できる最新の遺伝子解析技術を使い、1,000万個以上のDNA断片を解析します。そして1片ずつその由来となる染色体を決め、染色体毎に由来するDNA断片の比率を調べます。21番染色体を例に挙げると、正常胎児と比較して21トリソミー（ダウン症候群）である場合には、21番染色体由来のDNA断片の量が約1.5倍多くなります。このDNA断片の量の変化を特殊な解析方法を用いて明

確にすることで診断を行います。

この検査は、現在、国内23施設で「母体血を用いた胎児染色体検査の遺伝カウンセリングに関する臨床研究」として行われています。新潟大学医歯学総合病院でも平成25年4月2日から遺伝カウンセリングを実施しています。この検査では、事前の「遺伝カウンセリング」が非常に大切であり、カウンセリングを通して検査の利点・欠点および他の出生前診断との違いを十分に理解して頂く必要があります。

検査では、妊婦さんから約20mL採血し、米国の検査会社へ送ります。検査は妊娠10週以降（当院では妊娠16週ごろまで）から可能で、結果は2～3週間後に判明します。全て自費の検査となり、検査代金・カウンセリング料などを含み、費用は約20万円程度になります。

（総合周産期母子医療センター 助教 生野寿史）



歯科外来を受診される皆さんへ



～歯科外来は外来診療棟に引っ越しました～

平成24年11月26日に新外来診療棟が開院し、診療を開始しています。
 歯科外来についても、従来の歯科診療棟ではなく、この新外来診療棟に引っ越ししていますので、ご来院の際は間違いないようよろしくお願いいたします。

来院されたらまず受付を

【はじめての方】

まずはエントランス階受付へ。
 窓口は医科と共通です。
 3番「新来」窓口で受付をお済ませ下さい。



はじめての方の受付時間(歯科)は 9:00～11:30、13:00～14:30

受付後は外来診療棟4階の歯科フロアへ



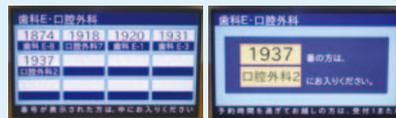
次に歯科受付1へお進み下さい。
 その後、予診室でお話をうかがってから治療を担当する診療科へご案内致します。

【再来(予約がある)の方】

再来の方は、「再来受付機」で受付を行うことになりました。
 来院されたら、まず再来受付機に受診券を通し、受付票をお受け取り下さい。



受付後はそのまま外来診療棟4階の歯科へ



待合モニターに受付票の番号が出たら、各診察台にお進みください。

新大医学部合唱団ミニコンサートを開催♪



日時：平成25年 6月14日(金)

場所：外来診療棟エントランス階待合ホール

入院中の患者さんに温かい歌声を届けたいと、毎年恒例の新大医学部合唱団によるミニコンサートが開催されました。

昨年秋にできたばかりの新外来診療棟で、学生さんがおなじみの唱歌などを披露。集まった患者さんやそのご家族は、美しいハーモニーに手拍子をしたり一緒に口ずさんだりし、楽しいひとときを過ごされました。

新大病院たより「和」のバックナンバーは本院ホームページ
 (<http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/about/koho.php>) をご覧ください。

発行 新潟大学医歯学総合病院広報委員会

(お問い合わせは総務課総務係 電話 025-227-2407,2408まで)